プレスリリース

報道関係者各位

資料提供日：2020年2月3日(月)

発信元：ANTIBODIES Collective（代表 カジワラトシオ）

ダンスと異形の人形が誘うダークファンタジー音楽劇

ANTIBODIES Collective(日本)×SFFW(デンマーク)『CORPO SURREAL』

2020年2月ロームシアター京都　**出演・振付＝東野祥子**

拝啓、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私どもANTIBODIES Collective(アンチボディズコレクティブ)は、京都市を拠点に、舞踊、音楽、美術を融合したパフォーマンス上演や普及活動をする舞台芸術集団です。このたび、新作音楽劇『CORPO SURREAL(コーポシューレアル)』を京都、東京の2都市のほか、王立劇場を含むデンマーク3箇所ほかにて上演します。

協働するデンマークのグループ Sew Flunk Fury Wit（ソウフランクフゥリーウィット）」は、等身大の人形と摩訶不思議な音楽とによる劇的な演出が評価され、デンマーク、アイスランドほかで多数の賞を受けています。今作では、2人の音楽家と声楽家による音楽が響く舞台に、空虚な目を宿した等身大の人形たちと舞踊家・東野祥子のダンスが絡み、不可思議な夢の世界やグロテスクでユーモラスな身体の変容と拡張が描かれます。身体性やジェンダー、文化的に固定された役割からの自由を求める時代において、「人間であることの意味とは何かという疑問への探求」を模索する新しい現代オペラの誕生が期待されます。

つきましては下記をご高覧いただき、周知にご協力いただけますよう何卒よろしくお願い申しあげます。

敬具

記・『CORPO SURREAL（コーポシューレアル）』京都公演概要

京都公演｜2020年2月28日（金）～29日（土）　ロームシアター京都ノースホール（京都市左京区）

コンセプト・パフォーマー・人形師：スベンド・クリステンセン（デンマーク）／ダンス・振付：東野祥子／歌：イザベラ・レイフドッテイア（アイスランド）／演出：ジェスパー・ペダーソン（デンマーク）／音楽：マルコフ（メキシコ）、カジワラトシオ

料　金　｜〔一般〕3,500円
〔ユース(25歳以下)〕2,500円
※いずれも前売価格。発売中。

特設WEB｜kaibunsha.wixsite.com/corposurreal
主　催　｜ANTIBODIES collective 、Sew Flunk Fury Wit
共　催　｜ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
企画制作｜NPO法人魁文舎（花光潤子）

＜画像請求・本リリースに関するお問い合わせ先＞
ANTIBODIES Collective （制作 滝村、広報 那木）
TEL= 080-4821-6545 MAIL= contact@antibo.org

企画趣旨

日本を代表するダンサー東野祥子と現代音楽家カジワラトシオが率いるパフォーマンス集団ANTIBODIES collectiveは、ダンスと音楽、映像、光、美術を駆使し、感覚の境界を超えるダイナミックな世界を展開し、国際的にも高い評価を得てきました。今回は、等身大の人形に命を吹き込み人間世界を摩訶不思議に描くデンマークのネオ・パペットリーカンパニーSew Flunk Fury Witとのコラボレーション作品に挑戦します。

人形たちは優雅な身のこなしで空間を浮遊し、時には破壊的な暴力性をむき出しにし、空虚な眼差しで舞台に存在する。意味をはく奪された絶対的な匿名性で、現代社会が抱える問題を鋭く投射する。自意識からの自由を獲得した彼らは、その空洞化した身体にあらゆる想像力を呑み込み、舞踊家東野祥子と共振してゆく____。
不可思議な夢の世界、グロテスクでユーモラスな身体の変容と拡張に遊ぶ、ハイパーシュールな音楽劇です。音楽はメキシコの作曲家マルコフとカジワラトシオ。アイスランドのオペラ歌手イザベラ・レイフドッテイアのクリスタルヴォイスで物語は紡がれていきます。

▽ 舞台セットを用いた稽古の様子（2020年1月 デンマークにて）

（左＝人形、中＝東野祥子、右＝イザベラ・レイフドッテイア　Photo by Søren Meisner）

Sew Flunk Fury Wit (ソウ・フランク・フリィ・ウィット)

等身大の人形と摩訶不思議な音楽により劇的な パフォーマンスを生み出す「ネオ・パペットリー」カンパニー。デンマークの芸術監督スベンド・クリステンセンによって2013年に設立された。クリステンセンは、長く研究を重ね、炭素繊維やシリコンなどの複合材料から様々なサイズの人形を精巧に作成。2016年製作の『STØV（DUST）』はデンマークアーツカウンシル2016の受賞をはじめ、2017年のベストパーフォーマンスと高い評価を受けた。
http://sewflunkfurywit.dk/

△等身大の人形と舞台でパフォーマンスを繰り広げるクリステンセン

ANTIBODIES Collective（アンチボディズ・コレクティブ）

日本を代表するダンサー東野祥子と現代音楽家カジワラトシオが2015年に結成したパフォーマンス集団。メンバーにはダンサーの他に音楽、舞台美術、映像、造形などの作家が在籍し、大掛かりな舞台芸術作品の発表やインスタレーションなどを実践している。
antibo.org

2019年、2018年　『エントロピーの楽園』（瀬戸内国際芸術祭・犬島、横浜赤レンガ倉庫）
2019年2月　ホセ・マセダ『カセット100』（TPAM 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019）
2019年11月　DUGONG（西宮フレンテホール）
2018年4月　アルヴィン・ルシエ招聘公演（京都大学西部講堂）　ほか

作品ノート

Svend E. Kristensen （コンセプト・パフォーマー・人形師）

『CORPO SURREAL（コーポ　シューレアル）』は、グロテスクでユーモラスな７体の等身大の人形とダンスが、観客を不可思議な夢の世界に誘うハイパーシュールな音楽劇です。舞踊家東野祥子とSew Flunk Fury Witのユニークな技術の融合、そしてメキシコのサウンドアーティスト・作曲家Murcofとカジワラトシオによる現代オペラの共作。光り輝くような歌声のソプラノ歌手によって物語は紡がれていきます。

私たちの体を夢の世界に変換し拡張したとき、人間はどうなるでしょうか？
CORPO SURREAL の発想の源は、人間であることの意味とは何かという疑問への探求です。 この作品を通して、身体性やジェンダー、セクシュアリティ、文化的に固定された役割として理解されている自身のアイデンティティから自己を解放する出口を模索します。
デジタル世界の自由なリアリティに浮遊する現象は、私たちのアイデンティティという考えにどのように影響するのでしょうか？
古い神話やおとぎ話は、自分自身を見つけることでした。しかし ポストモダニティの道のりでは、個人はすべての文化的枠組みと生物学的リンクから完全な自由を求めています。現代の広範する整形手術を通じて改造される身体や変容の誘惑。 新しい神話はあなた自身になることではなく、終わりも無いのです。それはむしろ、豊かな想像力を通してなされる継続的な変容です。自由への脱出にも見える、ハイパーシュールで終わりの無いおとぎ話なのです。

存在の境界を押し広げる願望から、人形は繊細で壊れやすく、恐怖や喪失感、怒りで炎症を起こしているといった夢想のキャラクターを体現しています。超現実的な生き物である彼らは、現実とハイパーシュールとの軋轢で湾曲し奇形となり、ねじれて不可思議な仮想の夢の状態を表現します。人間が突然変異したような怪物的な人形たちは、人形師スベンドとダンサー東野祥子によって操られ、詩的でダンサブルな宇宙の中で、ディスプレイと現実、ジェンダー、身体、自然と操作、静止と動き、生と死の間で揺れ動きます。それは主題と哲学の出発点としてのハイパーシュルレアリスムです。
人形たちはこの作品の中で、グロテスクでユーモラス、遊び心のある新しい身体と新しい声に挑戦します。彼らの動きの基礎は、ダンサーと同じように呼吸に依存しています。呼吸は両者の共通言語です。ダンスと人形の動き、この２つの強く輪郭を描いた表現は並行して実行され、相互に呼応して新しい創造の方法や動きのパターンを発見します。

スベンド・クリステンセン　Svend E. Kristensen （デンマーク）

80年代初頭デンマークの実験音楽シーンで芸術集団としてのキャリアを開始した。世界に名知られるVon Heiduckのパフォーマーとサウンドデザイナーとして92年〜2000年まで活動、公演ツアーで世界中を廻った。日本で能楽や人形使いを岡本芳一師に学ぶとともに、人形製作の研究を重ね、炭素繊維やシリコンなどの複合材料から様々なサイズの人形を精巧に開発することに成功した。日本の飯田国際人形劇フェスティバルやアジア諸国でソロパフォーマンスを披露するなど、20数年に及ぶパフォーマンスシアターやダンス、サウンドデザインなどのコラボレーションとプロデュースの経験を基盤に、独自の人形のセオリーを展開し、新たな人形劇の可能性を探るSew Flunk Fury Wit をプロデュースしている。
2016年製作の『STØV（DUST）』は、デンマークアーツカウンシル2016の受賞をはじめ、2017年のベストパーフォーマンスと高い評価を受けた。2018年製作の人形とライブ音楽がフュージョンする現代オペラ『CRASH』も批評家から最も重要なミュージックシアターと評され、ツアーを重ねている。

◎ 出演・スタッフ

東野祥子　Yoko Higashino （ダンサー・振付家）

10歳からダンスをはじめる。’00-’14まで「DanceCompany BABY-Q」を主宰。カンパニー作品として国内外の劇場やフェスティバルにて舞台作品を数々発表。ソロとしてもミュージシャンと即興セッションを多方面で展開する。トヨタコレオグラフィーアワード、横浜ソロ×デュオ〈Competition〉＋などで大賞を受賞。’15、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を結成。

イザベラ・レイフドッテイア　Isabella Leifsdottir（オペラ歌手／アイスランド）

パフォーマンススキルの幅広さと美しい声、そして観客を惹きつけて離さないステージの存在感で知られる抒情的なソプラノ歌手。 アイスランドとイギリスで学び、ロイヤルノーザンカレッジオブミュージックで大学院を修了。彼女のパフォーマンスは子供のミュージカルからバーレスクまで広く、現在の焦点は現代音楽に向けられている。彼女の最新作は、マイケルベッテリッジの現代オペラ「echochamber」で、アイスランドのフォークオペラのために彼女自身がプロデュースした。2018年5月にアイスランドのTjarnarbíó劇場で初演され、その後イギリスにツアーし、マンチェスターとハル、ロンドンのTete オペラフェスティバルで上演された。4つ星を獲得した劇評で、レイチェル・フォスターは「彼女の声はガラスを粉々に砕くほど爆発的だ」と評し、またマチュー・クレーバリーは「イザベラは素晴らしくコミカルで観客を笑いに巻き込んだ」と絶賛している。

ジェスパー・ペダーセン　Jesper Pedersen（演出家／デンマーク）

デンマーク戯曲賞受賞に輝く劇作家、演出家で、ノンバーバルフィジカルシアターから音楽劇、インタラクティブパフォーマンスまで多様なジャンルにわたる実験的な作品を創作、発展させている。作品『BLAM 』(2013)はReumert Jury’s特別賞とアイスランド演劇賞のベストダンス脚本賞受賞。『Dust』(2016)ではデンマークアーツカウンシルから演出賞、Reumert Jury’s特別賞にノミネートされた。『COOK』はReumert Jury’s特別賞にノミネート。他、全ての作品は世界中で上演ツアーされている。現在DanishNew play writing theatre Grobのアソシエイトディレクターに就任している。

マルコフ　Murcof aka Fernando （作曲家・電子音楽家／メキシコ）

Murcofはフェルナンドコロナのアーティスト名 。 1970年メキシコのティファナ生まれ。 現在はスペインバルセロナ在住。 エレクトロニクスとクラシカルな音源が、彼の音楽世界で統合されている。 彼の音楽には、聴衆を魅了し、生と死など永遠のテーマに触れる無限の可能性がある。ミニマリズム 、ポストモダニズム、バロック音楽とテクノロジーを用い、心を引き付ける壮大で感動的な音楽を作り上げている。映画 「 ラ サングレイルミナダ 」 (2009) のサウンドトラックや、ジャズトランペッターのエリックトラファズ (2008、2014) やヴァネッサワグナーとのプロジェクトなど、 さまざまなコラボレーションを実施。驚異的なライブプレゼンスとしてのマーコフの国際的な評価は高く、モントロージャズフェスティバルでタルビンシン&エリックトラファズとのコラボレーション、クラシック音楽家BCN216と光の彫刻家フリッカーとの作品「オセアノ」、視覚芸術家サイモン・ゲイルフス (AndV) とのコラボなど広範囲に活動している。

カジワラトシオ　（ミュージシャン）

サウンド・パフォーマンス・アーティスト。９０年代初頭のNYでターンテーブルや自作楽器を駆使した独自の即興パフォーマンスを始める。後にクリスチャン・マークレイと実験音楽トリオを結成、００年代初頭まで数々の海外遠征やパフォーマンス・イベントを共にする。他にもペーター・コワルド、シェリー・ハーシュなどの演奏家たちとも活動。また13年間に渡りNYの老舗中古レコード店で勤務し、埋没した歴史的音源の発掘や再評価の運動にも貢献する。現在は主宰する「ANTIBODIES Collective」で独自の演出方法と舞台音響の探求を続け、日本各地でパフォーマンス芸術の可能性を提示する。また、京都/木屋町にて「ヒト族レコード」を運営し、マージナルな文化芸能への開かれた回路を地域に提供している。

アンチボディズ・コレクティブ　ソウ・フランク・フリィ・ウィット

ANTIBODIES Collective × Sew Flunk Fury Wit
『CORPO SURREAL』京都公演

コーポシューレアル

2020年
2月28日(金)19:00、2月29日(土)14:00
ロームシアター京都 ノースホール
（京都市左京区岡崎最勝寺町13）

[料金] 前売発売中・全席自由
前売｜一般3,500円、ユース(25歳以下)2,500円
当日｜一般3,800円、ユース(25歳以下)2,800円

▷ イープラス eplus.jp https://eplus.jp/
▷ カンフェティ http://confetti-web.com/kaibunsha
▷ロームシアター京都 オンラインチケット、チケットカウンター
▷NPO法人魁文舎[KAIBUNSHA]
▷ANTIBODIES Collective　ticket@antibo.org　　ほか

【東京公演】
2020年2月23日(日)19:00、2月24日(月祝)13:00／18:00
スパイラルホール（東京都港区南青山5-6-23）
[料金] 前売発売中・全席自由　一般：3,800円、ユース(25歳以下) ：2,800円

Concept / Performer/ Puppeteer：
Svend E.Kristense（デンマーク）
Dance / choreography：東野祥子（日本）
Singer : Isabella Leifsdottir（アイスランド）
Director：Jesper Pedersen（デンマーク）
Music：Murcof aka Fernando（メキシコ）、カジワラトシオ　(日本)
Sound design : カジワラトシオ　(日本)

Script / Lyric：Neill C.Furio
Set designe：Johan Kolkjar
Lighting：Arnar Ingvarsson
Sound：Andreas Hald Oxenvad
Japan tour stage manager：夏目雅也
Japan tour Lighting： 森下泰
PR design：井原靖章（IHARA YASUAKI DESIGN）
Produce：NPO法人魁文舎（花光潤子）

主催： ANTIBODIES Collective、Sew Flunk Fury Wit ／共催：〔京都公演〕ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）／会場協力：〔東京公演〕株式会社ワコールアートセンター／後援：デンマーク大使館／助成：文化庁文化芸術振興費補助金(国際芸術支援事業)｜独立行政法人日本芸術文化振興会／国際交流基金

企画制作：NPO 法人魁文舎（花光潤子）　info@kaibunsha.net　Tel= 03-3275-0220
特設ウェブサイト ▷ kaibunsha.wixsite.com/corposurreal　instagram▷ @antibodiescollective

＜画像請求・本リリースに関するお問い合わせ先＞
ANTIBODIES Collective （制作 滝村、広報 那木）
TEL= 080-4821-6545 MAIL= contact@antibo.org